

■ BUNGAKUZA TSUSHIN 2025.7 Vol.791

文学座通信

- 座談会
アトリエの75年とこれから 1~3
小林勝也×鶴山仁×西本由香×小石川桃子
- 2025 夏のワークショップ 4
- 地方公演『昭和虞美人草』 5
- アトリエの会『野良豚 Wild Boar』 6~7
- アトリエ短信 8



写真左から

演技部 演出部 演技部 演出部
小林勝也×西本由香×小石川桃子×鶴山 仁

座談会 | アトリエの75年とこれから

転換期としての一九七〇年代

——一九五〇年に信濃町にアトリエが竣工し、今年で七十五年を迎えます。皆さんそれぞれの思い出とともに、文学座にとってのアトリエの展望などを伺いたいと思います。

小林 昔のことは定かでないんですが、一九六六年の『マスケレヴ軍曹の踊り』でアトリエに出たのが初舞台。研修科の一年だったと思います。その頃、アトリエの会は関係者や支持会員向けで一般公開はしなかった。一九四七年に始まった「フランス演劇研究会」を前身とするアトリエは、役者の修行の場であるとともに、興行的に劇場公演が難しい前衛劇——サルトル、アヌイ、ジロドゥ、ベケット、イヨネスコをやるような場でした。

——非公開だったアトリエが一般に開かれるのが一九七〇年。どんな方々が運営に関わっていたんでしょうか。

小林 今という「アトリエ委員会」の前身が「創作劇研究会」でしたが、一九六〇年代に元気のいい若者が入ってきて、上層部の人たちが自信をなくしてた(笑)。責任者だった荒木道子さんが「私たちは手を引くから、若手でアトリエを運営しなさい」と。具体的にどんな手順だったかわかりませんが、坂口(芳貞)さんが主導して、出口(典雄)君や僕、藤原新平さん、岩村(久雄)さん……アトリエの企画に関心を持つ人たちがなんとなく集まった緩いグループでした。そこから自然に二、三年ずつテーマを決めて何かやっていこうというところで、若手の劇作家や取りこぼされる外国の作品を拾っていた気がします。

鶴山 まだ文芸部が機能していた時期。

小林 小田島(雄志)さんもいらっちゃいました。シェイクスピアやエリザベス朝演劇で木村光一さんが登場するなど若手演出家の登竜門で、俳優も私たちが若手が主力でしたが、北村和夫さんも出た。その意味で、アトリエでの公演は特別でなく、当たり前なものとしてやってましたね。形は今と違うけど、従来のイメージを継承しながら更新し、若手が企画を生むという点では、当時の思いはつながってるんじゃないかな。鶴山 そこから別役(実)さん、つか(こうへい)さんも出てくるわけですね。小林 ええ。僕が担当したのは、金杉



『説教強盗—玉の井余譚—』
金杉忠男作、小林勝也・アトリエ委員会 演出

忠男なんです。自分たちが興味ある企画を出すように言われたので、金杉さんの『説教強盗—玉の井余譚—』(一九七五年)を出したら通っちゃった(笑)。じゃあ、誰が演出するか。僕は全然やる気はなかったんですが、みんなが「提出者なんだから、お前がやれよ」と。なので「それなら引き受けるけど『小林勝也演出』にしないでほしい」と言っただけです。実際は僕が演出しましたが、記録は「アトリエ委員会演出」と併記されている。だから思いきりできたのかもしれない。アトリエ委員会の全体責任ですから(笑)。

それぞれのアトリエ

鶴山 僕がアトリエで初めて観たのは『斎藤君の星』(一九七六年)でした。中条(康臣)さんという演出部の先輩の創作で、若い人たちが自由にやっている空間だと思いました。あの頃、文学座の本公演では、木村光一演出で、水上勉



観劇体験をプレゼント！ 「ギフトチケット」について

観劇を希望していても、様々な事情で演劇にふれる機会の少ないご家庭に文学座の観劇体験をプレゼントすることのできる「ギフトチケット」(1口3千円)となります。文学座が提携する子ども支援団体を通じた、今年2年目の取り組みです。

ギフトチケットご協力の旨を公演チケットお申込はがきにお書き添えいただき(またはお電話)、下記口座にご送金ください。

三菱UFJ銀行 四谷支店 普通 4360713
(株)文学座 切符代金口

◇お問い合わせ TEL03・3351・7265
(10～18時/土・日・祝を除く)

アトリエ短信

■ 暑中お見舞いのご案内

今年の暑中お見舞いは、正岡香乃(演出部準座員)が担当します。どうぞお楽しみに。

■ パートナーズ倶楽部夏季特別イベント 「1961年版『女の一生』上映会」

今回は特別に支持会員の方々も先着20名様までご参加いただけます。ご参加をご希望の方はお申し込みください。パートナーズ倶楽部の方は皆様お申し込みいただけます。

◇ 8月10日(日) 13時10分～17時(予定)

※ 12時30分開場

※ 終了後、プチ懇親会あり

◇ 信濃町・文学座新モリヤビル2階

◇ 支持会定員 先着20名

◇ お申込期間 7月7日(月)～18日(金)

※ ご予約時に「お名前」「お電話番号」「住所」をお知らせください。

◇ お申し込み・お問い合わせ

TEL 03・3351・7265

(企画事業部 10～18時/土・日・祝を除く)

■ 附属演劇研究所本科(65期)発表会

ソーントン・ワイルダー 作

森本薫 訳より 坂口芳貞 補訂

『わが町』

〈昼間部〉大滝寛 演出

〈夜間部〉高橋正徳 演出

◇ 7月6日(日)

◇ 信濃町・文学座アトリエ

※ 一般予約は受け付けず、関係者のみの対応とさせていただきます。ご了承ください。

■ 附属演劇研究所研修科第二回発表会

井上ひさし 作

松本祐子 演出

『天保十二年のシェイクスピア』

◇ 出演 新井涼平、小笠原義為、笹倉功基、

下中勇樹、高森恵悟、立木遼太郎、松尾啓希、

一乗瑳来、井上留菜、大木惟吏、櫻井咲楽、

鈴木玲唯菜、瀬崎尚子、萩原すみれ、舩谷

マイア、矢島美藍 / 雨宮遼、伊藤陸、君島

太陽、須崎陽道、孫太悟、徳永壮一郎、松山

昇平、岡田和己、黒木麻純、佐藤柊佳、田之上

もも、野村侑加、麓雛多

◇ 7月25日(金) 18時

◇ 26日(土) 12時30分 / 18時

◇ 27日(日) 12時30分

◇ 信濃町・文学座アトリエ

◇ 入場料 2,000円

(要予約・全席指定・当日精算・消費税込)

◇ ご予約・受付開始 7月11日(金)

20時から(WEBのみとなります)

※ 詳細は公式HPにて

◇ お問い合わせ TEL 03・3351・7265

(11～18時/土・日・祝を除く)

■ 退座 5月31日付で演技部の高塚慎太郎が退座いたしました。



出演情報

◎追加情報は文学座HPにて

★ 乃村美絵、鈴木結里：『ハリー・ポッターと呪いの子』(J.K.ローリングオリジナルストーリー、ジャック・ソーンオリジナルストーリー・脚本、小田島恒志・小田島則子訳、ジョン・ティファニー オリジナルストーリー・演出) 2024年7月～TBS赤坂ACTシアター

★ たかお鷹：『マクベス』(W.シェイクスピア作、小田島雄志訳、吉田鋼太郎演出・上演台本) 6/6～8 刈谷市総合文化センターアイリス、6/12～14 広島文化学園HBGホール、6/20～22 福岡市民ホール、6/26～30 梅田芸術劇場(大阪)

★ 松岡依都美、渡邊真砂珠：『みんな鳥になって』(ワジディ・ムワド作、藤井慎太郎訳、上村聡史演出) 6/28～7/21 世田谷パブリックシアター、7/25～27 兵庫県立芸術文化センター、8/1～/3 東海

市芸術劇場大ホール(愛知)、8/8～10 岡山芸術創造劇場ハレノワ、8/15～8/17 J:COM 北九州芸術劇場(福岡)

※ 渡邊真砂珠は岡山、福岡公演に出演

★ 原康義、塩田朋子、常住富大、音道あいり、河野顕斗：ミュージカル『二都物語』(ジル・サントリエロ脚本・作詞、鶴山仁訳・演出) 7/5～13 博多座

★ 浅野雅博、sara：ミュージカル『梨泰院クラス』(チョ・グァンジン原作、坂口理子脚本、小山ゆうな演出) 7/6～11 箕面市立文化芸能劇場(大阪)、7/18～21 アイプラザ豊橋(愛知)

※ saraは大阪公演に出演

★ 藤川三郎、名越志保、駒井健介：『華岡青洲の妻』(有吉佐和子作、齋藤雅文演出) 7/10～23 南座(京都)、7/26・27 久留米シティプラザ(福岡)、8/1～17 新橋

演舞場

★ 目黒未奈、采澤靖起：『歌え！悲しみの深き淵より』(ロバート・アンダーソン作、木村光一訳、鶴山仁演出) 7/17～29 全国演艦連(静岡)

★ 石森咲妃：『かもめ』(アントン・チェーホフ原作、川野蒼空脚色、鮫嶋樹演出) 7/18～21 パルススタジオ(高島平)

★ 越塚学：『The Work』(八鉤健之介作・演出) 7/18～27 シアター風姿花伝(中落合)

★ 下池沙知：『廃墟』(三好十郎作、中津留章仁演出) 7/25～8/3 駅前劇場(下北沢)

★ 川辺邦弘、萩原亮介：リーディング『不可能の限りにおいて』(ティアゴ・ロドリゲス作、藤井慎太郎訳、生田みゆき演出) 8/9～11 シアタートラム(三軒茶屋)